

議 事 録

会 議 の 名 称	第4回小美玉市小学校（野田小学校・上吉影小学校・下吉影小学校） 統合準備委員会																																																				
開 催 日 時	平成29年11月29日（水） 19時00分～																																																				
開 催 場 所	小川文化センター アピオス 小ホール																																																				
出 席 者	<p>【出席委員】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>小石川寛則</td> <td>小川 勲</td> <td>石井 正道</td> <td>吉田 洋子</td> </tr> <tr> <td>片岡 友加</td> <td>三代田 久</td> <td>成井 志野</td> <td>古関 文暁</td> </tr> <tr> <td>柴森 浩志</td> <td>新井 淳子</td> <td>白石 靖弘</td> <td>久保田達雄</td> </tr> <tr> <td>宇野 和夫</td> <td>佐藤 正</td> <td>青葉 宏一</td> <td>中村喜代美</td> </tr> <tr> <td>砂田 和広</td> <td>久保田英行</td> <td>藤田 康広</td> <td>篠原みち代</td> </tr> <tr> <td>中村 孝</td> <td>久保庭裕一</td> <td>風間 博身</td> <td>菅谷 正治</td> </tr> <tr> <td>藤井 敏生</td> <td>長島 幸男</td> <td>幡谷 好文</td> <td>石井 旭</td> </tr> <tr> <td>山本 洋平</td> <td>堤 憲之</td> <td>高野 晴夫</td> <td></td> </tr> </table> <p>【欠席委員】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>長谷川明美</td> <td>佐川 栄治</td> <td>大曾根憲司</td> <td>須藤美智代</td> </tr> <tr> <td>赤羽 久志</td> <td>細谷 省一</td> <td>佐川 美佳</td> <td>大曾根慎悟</td> </tr> </table> <p>【事務局】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>長津 智之</td> <td>石田 進</td> <td>中村 均</td> <td>植松 雄一</td> </tr> <tr> <td>植田 薫</td> <td>外之内信浩</td> <td>内田 真基</td> <td>戸塚 聡</td> </tr> <tr> <td>田村 直弥</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>【その他】 （楠山設計） 青木 伸美 寺林 大樹</p>	小石川寛則	小川 勲	石井 正道	吉田 洋子	片岡 友加	三代田 久	成井 志野	古関 文暁	柴森 浩志	新井 淳子	白石 靖弘	久保田達雄	宇野 和夫	佐藤 正	青葉 宏一	中村喜代美	砂田 和広	久保田英行	藤田 康広	篠原みち代	中村 孝	久保庭裕一	風間 博身	菅谷 正治	藤井 敏生	長島 幸男	幡谷 好文	石井 旭	山本 洋平	堤 憲之	高野 晴夫		長谷川明美	佐川 栄治	大曾根憲司	須藤美智代	赤羽 久志	細谷 省一	佐川 美佳	大曾根慎悟	長津 智之	石田 進	中村 均	植松 雄一	植田 薫	外之内信浩	内田 真基	戸塚 聡	田村 直弥			
小石川寛則	小川 勲	石井 正道	吉田 洋子																																																		
片岡 友加	三代田 久	成井 志野	古関 文暁																																																		
柴森 浩志	新井 淳子	白石 靖弘	久保田達雄																																																		
宇野 和夫	佐藤 正	青葉 宏一	中村喜代美																																																		
砂田 和広	久保田英行	藤田 康広	篠原みち代																																																		
中村 孝	久保庭裕一	風間 博身	菅谷 正治																																																		
藤井 敏生	長島 幸男	幡谷 好文	石井 旭																																																		
山本 洋平	堤 憲之	高野 晴夫																																																			
長谷川明美	佐川 栄治	大曾根憲司	須藤美智代																																																		
赤羽 久志	細谷 省一	佐川 美佳	大曾根慎悟																																																		
長津 智之	石田 進	中村 均	植松 雄一																																																		
植田 薫	外之内信浩	内田 真基	戸塚 聡																																																		
田村 直弥																																																					
協 議 案 件	<ul style="list-style-type: none"> ・視察研修について ・アンケート集計結果，施設整備方針について 																																																				
会 議 資 料	別 紙 （ 会議次第、 他 ）																																																				
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録																																																				
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 （傍聴者 0 人）																																																				

【報 告】

(1) 視察研修について

委員長 先日の視察研修について、同行できずに申し訳なかった。今日は、視察研修の報告を聞き、新校舎建築に向けて、建設的な意見交換ができれば幸いだと思っているので、協力をお願いしたい。

副委員長 それでは、視察研修について、報告をお願いしたい。

事務局 では、11月8日に実施した成田市の下総みどり学園視察の報告をさせていただきます。当日の内容については、これまで議事録として委員に配布しているものと同様の様式、研修報告に全て網羅されている。

また、下総みどり学園からの説明概要を資料1-1としてまとめている。こちらをご覧ください。

まず、開校までの道のりは、P1の下スライドのようになっている。

平成18年に下総町、大栄町が成田市に合併となり、平成20年に学校適正配置調査報告として、下総地区4小学校の統合が提言された。住民説明会や視察等を経て、平成22年に下総地区長会が統合に対する同意書を提出し、下総地区4小学校の統合が決定された。平成23年には呉市の小中一貫サミットに参加した。また、地域、保護者、学校の代表などが委員となった小中連携推進委員会が発足し、小中一貫教育校としての設立が決定した。このように下総地区では、まず小学校の統合、小学校を1校、中学校を1校としていこうということだった。地区へ説明をする際などは、ポリシーとして、「学校は統合するけれども、下総地区でしかできない教育をしましょう、教育を縮小するわけではありません、子供たちにとって下総地区が誇りになるような教育をやりましょう、この地区でならできる教育は小中の強力な連携です」といった説明を行ったということだった。当初は、小学校と中学校を隣接させて建物を造り、強気に連携しようという話だったが、先進校視察等を経て、小中一貫校とするという方向性となった。それについては、当日の質問、回答にもあるが、中1ギャップ、小学生から中学生になるステップは大きいということがあり、そのステップを小さくできないだろうかということから、9年間を通した教育を行うということに至ったようだった。また、平成24年には具体的な内容を検討する部会での協議が始まり、学校のイメージが決定された。その後、下総みどり学園が開校となった。その開校の3年後、平成29年には義務教育学校へと移行している。

続いて、施設について。下総みどり学園は、元々建っていた旧下総中学校に小学校を設置している。新校舎の小学校棟は、中学校に連結した形で建設した。また、その新校舎は下総中学校グラウンドに建設したため、拡張した隣接敷地に中学校のグラウンドを設置した。

続いて、学区と通学について。

下総みどり学園は、学区の中央に位置しており、1年生から6年生までの通学を6系統のスクールバスを使って補助している。現在は、88パーセントの子供たちがスクールバスを使用しており、徒歩で通学している1年生から6年生は、10名に満たないとのことだった。また、登下校はそれぞれ2便ずつ出しており、子供たちを乗せたバスが1度学校へ到着した後、再度迎えに行き、学校へ到着するという形態としている。なお、部活動の関係等がある

るため、7年生以上は自転車通学をしている。

次に、下総みどり学園の特徴について。

まず、施設が一体型であり、9年間同一の指導体制となっている。それにより、自然に子供たちの交流が生まれているということだった。具体例としては、1年生から9年生、いわゆる中学3年生までが縦割り班に分かれ、合同で清掃活動などを実施している。それにより、子供たちの交わりが9年に伸びている。その結果、下総みどり学園の卒業生である高校生が在学中に一緒に活動をしていた2、3年生に声をかける光景があり、地域とのつながりが非常に強くなっている。

次に、ブロック制、4-3-2制という特徴がある。前期ブロックを1年生から4年生、中期ブロックを5年生から7年生、後期ブロックを8年生から9年生としている。ブロックそれぞれでブロック長を指名し、ブロック単位での活動を中心に教育課程を運営している。ブロック長を設けることにより、日頃からリーダーとして育てている。また、各ブロックの行事を実施し、各ブロックを締めくくる行事なども実施している。具体例として、前期ブロックの行事は、1年生を迎える会や就学時健康診断などがある。それらは、通常の小学校では5年生や6年生が中心となって行う行事だが、下総みどり学園では前期ブロックのリーダーである4年生が中心となっている。実際にそれらを行う前は、4年生には厳しいのではないかという声があったようだが、日頃からリーダーとして育てているので、しっかりとやりきってくれるとのことだった。また、中期ブロックにおいては、合同宿泊学習を5年生と7年生で実施している。この行事においても、リーダーである7年生が5年生をリードして行っている。後期ブロックにおいては、ブロックのリーダーとしてだけではなく、学園全体のリーダーとして様々な行事で活躍をしている。また、※印の記載がある行事は、各ブロックの締めくくりとしての行事となっている。下総みどり学園では、9年間を通した教育を行っているため、小学校の卒業式を行っていない。通常、小学校と中学校の区切りは、6年・3年だが、下総みどり学園の区切りは、4年・3年・2年となっている。そのため、区切りとして、各ブロックの最高学年で締めくくりの行事を実施している。

次の特徴として、授業時間の違いがある。前期ブロックは、1つの授業が45分、中期ブロックと後期ブロックは、50分となっている。そのため、朝と昼以外はチャイムなしで学校運営をしている。それにより、子供たちは時計を見て行動するようになったということだった。また、右側の表は、下総みどり学園の日課表となっている。

次の特徴として、5年生からの教科担任制がある。小学校の担任交換や専科教員と言われる中学校の教科免許を持った教員による授業を実施している。また、通常は中学校で行っている中間テスト、期末テストなどを5年生から実施している。専門的な教員が教えるため、学力的に非常に効果をあげているとのことだった。下の表は5年生、6年生の時間割になっている。表中の白色になっている授業は、担任の先生のみで行っている授業。オレンジ色になっている授業は、専科教員と担任教員で行うなど、複数の教員で行うTTの授業となっている。また、緑色になっている授業は、教科担任、いわゆる専科教員のみで行う授業となっている。特に、新しい学習指導要領において

必修となる小学校の英語は、英語の専科教員とALTが全て行っている。また、体育、家庭科、音楽は専門の教員が全て教えている。その結果として、7年生となった際には、基本が確実なものとなっており、他の中学校にはない学習の深まりがあるとのことだった。

次の特徴として、異学年交流、上級生と下級生が学び合う場面を多く取り入れられている。具体例としては様々なものがある。例えば、縦割り班による全校遠足があり、清掃を行っている班で実施している。この遠足は2 kmから3 km程度を歩く遠足だが、途中で疲れてしまった1年生などを上級生がおんぶして歩くといった光景が見られるとのことだった。また、音楽祭は5年生以上が参加し、声変わりが終わった先輩たちの歌声を聞くことになる。5年生たちは、その歌声に憧れを抱き、音楽の授業や合唱の練習に一生懸命取り組んでいるということだった。

最後の特徴として、地域との絆がある。下総みどり学園は、児童生徒の成長を家庭、学校、地域が一体となって見守るとしている。例えば、リサイクル活動を地域、生徒、PTAが一緒となって年4回実施しており、卒業生も多く参加しているとのことだった。また、下総地区の建設業協会に協力していただいているということがある。

当日の内容を簡略化しての説明となり申し訳ないが、より詳細については、研修報告をご覧ください。

また、資料1-2は、事前質問及び当日質問と回答となっている。資料1-3については、視察時に配付した視察レポート、委員がどのようなことを感じ、新しい学校をつくっていく上でどのようなことを大切にしていきたいかなどのまとめとなっている。

では、その内容や意見等を実際に視察へ行った委員からいただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

委員 私には、現在小学校4年生になる息子と4歳になる双子がいる。この統合小学校にお世話になるので、実際に小中一貫教育とはどのようなものか、自分の目で確かめたいと思い、参加させていただいた。まず、子供たちのために色々な立場の方々が参加してくださったことが、ありがたいと感じながら、視察に向かった。視察先では色々とお見学させていただいたが、下総みどり学園の校長先生が言っていた「9年間の連続した環境だからこそできる教育、だからこそしかできない教育」というものが、新しい統合小学校でも実現されると良いという印象が強く残った。上級生から下級生が学び、下級生から上級生が学ぶ環境、中学生と小学生が低学年のうちから関わりあい、子供たちが地域を支えていく一員なのだと胸を張って卒業できるような学校になってほしいと思った。また、印象に残ったこととして、国語力の高さがある。行事のまとめといった新聞等が廊下に掲示してあったが、細かい文字で隙間なく、内容もしっかりとまとまっていた。どの教科においても国語力は必須となる。それらの掲示が誰の目にも止められる廊下であり、上級生たちの手本が身近にあるということが良いことだと思った。また、各階廊下の端に国語辞書が何冊も置いてあり、授業中に使いたくなかった際には、そこで調べ学習を行うということだった。それがスムーズにできるようになっているという校長先生の話もあった。

ハード面では、新しい小学校棟が小川北中の造りによく似ていると思った。教室と教室の間に小さい教室、サブ教室のようなものがあり、そこで学習の遅れがある子供のフォローなどができているということだった。そういったものも取り入れられていると良いと思った。それから、トイレについては、男子トイレも全て洋式トイレになっていた。トイレに行きたい際、小ではないとためらうことがあり、具合が悪くなるという話も聞くので、そういった面も配慮して造ると良いのではないかと思った。それから、黒板が上下可動のホワイトボードだった。小川北中でも採り入れられているが、先生は使いやすく、子供たちは板書が取りやすいのではないかと思った。また、廊下の壁をフルオープンにすることができ、教室全体を廊下から見渡せるということがすごいと思った。廊下が広く取ってあり、そこでグループ学習等の発展的な学習ができるといったメリットがあるという話だった。廊下も広く造ると、楽しんで授業を受けられるような環境になっていくのではないかと感じた。個人的な思いとしては、子供たちが学びやすい、過ごしやすいということはもちろん大事だと思うが、先生が働きやすい環境であってほしいと思っている。職員室は1つという話だった。あまり狭くなりすぎず、今の小川北中の職員室のように明るく開放感があると、低学年の子供たちも職員室に訪れやすいのではないかと思った。最後に、このような貴重な機会を設けていただいたことに感謝申し上げ、私の発表とさせていただきます。

委員 まず、どのような学校をつくりたいか、どのような子供たちを育てたいか、そして、どのような力を身に付けさせたいのかという目指す学校像や子供像等を学校や保護者、地域で共に考え、協議会を通して深めていったことが参考になった。9年間の中で培われる人間性、個々の学び、育ち、行事等を通しての活躍、保護者等の交流など、学校の良さや特色が目で見えて分かった。低・中学年から教科専門の教師の導入、靴を揃えるなど生徒指導面での共通理解も小中一貫の良さであると感じた。

また、施設等のハード面としては、子供たちが主体的・対話的に学び合うスペースが十分に確保されていた。また、バリアフリーのためのトイレ、エレベーターの設置など、地域に開かれた学校としての機能、インクルーシブの視点としても十分な整備がされていたと思う。特に、全児童生徒が整列できるアーケードは、雨天時や緊急時の対応として、工夫・整備されていると感じた。

委員 前々から義務教育学校には興味があったので、1回行ってみたいという思いがあった。小美玉市の近くには、つくば市の春日学園や今年開校した河内町のかわち義務教育学校など、いくつかの義務教育学校がある。春日学園は、下総みどり学園の児童生徒数の倍もある規模が大きい学校だが、下総みどり学園と小川北中学区の規模は似ていると思うので、興味があった。視察先で校長先生の話聞いたが、新しい学校をつくるという強い想いを言葉の端々に感じた。やはり、1人が頑張ったとしても、なかなか学校はできないと思う。職員全体の思いや信念、あるいは地域の方々の協力などがないと、できないのではないかと思う。人数が増え、規模が大きくなり、校長先生も非常に大変だと思う。義務教育学校のメリット、デメリットは、いくつかあると思う。メリットを考えると、一貫した教育課程を取り入れられることや、先ほども話があった中1ギャップの軽減にもなるということがあると思う。特

に感じたことは、異学年交流、縦割班の交流がいかに大切かということを感じた。中1ギャップの弊害がよく言われる。中学校へ進学し、先生が変わることや生徒の人数が変わるなど、環境が劇的に変わることで、学校に馴染めずに不登校となってしまうたり、引きこもりになってしまうこともある。それを防ぐためにもなると思う。特に、ブロック制の中期に注目をした。5年生から7年生の教育だが、上級生の行っていることを下級生に伝える機会が多くなり、そこから得るものがある。上級生が下級生に教える喜びや、下級生が教わって楽しかったと感じるということがあり、そういった付き合い方を覚えていくというように思っている。中1ギャップがいくらかでも軽減できることで、精神的な負担が軽くなり、後期の学年にスムーズに移行できると良いと思う。私は、その中でも清掃がとても大事だと思っている。異学年交流、縦割班の交流である清掃を上手く利用する。現在、小学校においても行っているところがあると思うが、積極的に取り入れていくと非常に良いのではないかと思う。清掃は、本当に貴重な時間ではないかと思う。学年が違う、歳が違うことから、学び合えるものが互いにあるのではないかと思う。それから、5年生からの教科担任制があるが、専門性を生かせるという意味では、非常に良いのではないかと思う。デメリットの面は、おそらく挙げたら限りないものがあるのではないかと思うが、情報収集や検証などが必要になってくるのではないかと思う。例えば、規模が大きくなることにより、一人一人の生徒に対する目配りが希薄になるのではないかとかという思いがある。つくば市の春日学園は、生徒数が2000名を超えているが、実際にどのように生徒と向きあっているのかということ想像すると、大変ではないかという思いもある。それから、早期に教科担任制を行うことの弊害もあるのではないかと思う。また、職員室も非常に大きくなっていくと思うが、教員の意思疎通が可能なかという不安なところがある。それから、校長先生の話では、基本的な生活習慣を重んじていると感じた。礼儀やマナーを重視しているのではないかと思う。

次に、ハード面について。旧校舎に新しい校舎を増築しているが、明るさや機能面、動線など、校舎間に多くの差があったと思う。それをリフォームしており、解決してきているのではないかと思う。先ほども出ていたが、教室と廊下の間仕切りは、フルオープンになる引き戸となっていた。学校によっては、完全に間仕切りがない学校もあるが、廊下も含め、色々な面で有効活用ができるのではないかと思っている。収納面や清掃面、換気や明るさ、防災等も含め、余裕があるスペースは良いのではないかと思う。また、閉鎖空間におけるストレスもあると思うので、そういった面においても軽減できるのではないかと思う。それから、バスの待合場所について。先ほど、88%がスクールバスを利用とあったが、バスを待つ非常に大きな屋根のあるスペースがあった。バスの待合や集まり等に重宝するのではないかと思う。早い時間に登校する子は7時ごろになるということなので、そこをどのように解決していくかということが気になったところではある。ハード面については、情報を収集していくことで解決できる可能性があるのではないかと思う。以上で終わりたい。

委員長 事務局及び3名の委員から細かな報告があった。これから参考になることが多くあったと思う。その他に報告、疑問点や気付いた点があれば、お願いし

たい。

－ 発 言 な し －

【議 事】

(1) アンケート集計結果，施設整備方針について

委員長 事務局より，説明をお願いしたい。

事務局 議事の説明に入る前に報告，紹介させていただく。今回，学校を建設するための設計を作成するにあたり，基本設計業務委託を10月18日に入札にて行い，応札の結果，株式会社楠山設計茨城営業所と契約した。主に基本構想のとりまとめや，建物の空間構成を具体化した設計図書を提案，作成していただく。挨拶させていただきたい。

楠山設計 机の上に置いたパンフレットは，会社が50周年の際に作った資料となっている。本社は東京にある。設計事務所という業種は，押し売りするものではなく，縁があって仕事をいただき，新しいものをこしらえていくということが仕事になる。今回は，学校をつくる最初のところから参加させていただき，大変嬉しく思う。当然ながら，良いものを造ることが僕らの仕事だと思っている。また，オリジナルのものを造るということで，前はどうかだったという話はしたいが，今回はこのようにしたいという話を是非聞かせていただきたいと思う。よろしくをお願いしたい。

資料2-1に基づき，事務局及び楠山設計より説明

事務局 まず，資料2-1をご覧ください。前回の準備委員会において委員にご覧いただいたアンケートを児童生徒，保護者，教職員それぞれに実施した。配付数1,137に対し，886の回答があり，回答率は約78%だった。続いて，資料2-2をご覧ください。先ほどのアンケート取りまとめ，その結果を元にした施設整備方針（案）を楠山設計に提案いただいた。今回の施設整備方針は，たたき台となっている。今後，教職員及び教育委員会にて精査を行い，次回の準備委員会の際に再度提示させていただきたい。また，その施設整備方針を元にした校舎の配置計画案を合わせて提示する予定としたい。アンケート集計結果及び施設整備方針（案）の詳細については，楠山設計から説明させていただきたい。

楠山設計 資料2-1をご覧ください。

P1は，アンケートの対象者を記載している。

P2とP3は，対象者の所属となっている。

P4は，「教育施設以外に小中学校に求める機能・役割」に対する保護者の希望となっている。「避難場所」という回答が一番多いが，これは今までも持っていた機能なので，当たり前のことだと思う。次に多い「地域交流の拠点」を学校プラスαの機能として，考えなくてはならないと考えている。

P 5は、学校との関わり方について。「ほどよく関わっていきたい」という回答が大変多くある。これまでの資料、その他を仄聞しているだけだが、大変関心がある方が多い地域と感じている。

P 6, P 7, ここから少し面白くなってくる。右上に児童生徒問3, 教職員問2, 保護者問5と記載した。3種類の対象者に同じ質問, 「新しい学校に通う児童生徒をイメージするキーワードについて」の質問をしており, それぞれ少し違った形の答えが出ている。分かりやすいものは, P 7となっている。「ふれあい」という回答が多く, まさに義務教育学校になること, 異学年交流について関心を持っているということが分かると思う。もちろん「元気」, 「仲良し」, 「笑顔」, 「楽しい」という陽気なイメージとする希望があり, 大変良いと思っている。

P 8, P 9, これも3者に「学校のイメージキーワード」について聞いている設問となっている。一番多いものは, 「健康・体力(スポーツ)」となっている。次に「自然環境」, そして「学力」とある。学力の話は, 後で再度出てくる。P 9では, それに色を塗っているが, 3者がだいたい同じようなものを希望していることが分かる。

P 10, P 11, 「最も充実させたいもの」について。先生と保護者において, 「自ら学ぶ, 主体的に学ぶための学習空間」が多くなっている。自ら学ぶ, 主体的に学ぶ学校がどういったものかというところを, 私たちの立場では形にしていかななくてはならないと思っている。P 11は, その説明にあたるページとなっている。

P 12, P 13, 「学校施設にあった方が良いものについて」の「学習に関するもの」について。基本的には広いところがほしいという感じになっている。特別教室の広さ, 少人数学習教室がほしい, 普通教室の広さ, グラウンド・体育館の整備というように, 広さに関係するものが多い。児童は, ビオトープという自然に触れるような施設がほしいということも3番目に言っている。それから, 保護者と教職員は, 多目的スペースも多い。例えば, この会場のような部屋が学校があれば, 色々な使い方ができるのではないかと, それこそ交流の場として, 色々な使い方ができるのではないかとということもイメージされているように感じた。

P 14, P 15, 「学校施設にあった方が良いものについて」の「校舎内に関するもの」については, 「冷暖房」が大変多くなっている。最近の学校はほとんど行っているので, 書かれなくても大丈夫だと思う。また, 「トイレの数」が多くある。これも深読みすると, 校舎内のトイレということもあるが, イベント時のトイレが足りないということや, 外のトイレが足りないということかと推測している。

P 16, P 17, 「学校施設にあった方が良いものについて」の「校舎外に関するもの」についても, その他ご意見の箇所に「校庭用トイレ」とある。多いものは, 「遊具」や「駐車スペース」となっている。また, 「太陽光発電」が新鮮な感じを受けた。学校が上部組織から言われてつけるということではなく, 多くの方が太陽光発電に関心を持っているということが面白いと思った。

P 18, P 19, 「学校施設にあった方が良いものについて」の「その他」については, 防犯に関わるもの, 「防犯カメラ」や「死角を少なくした施設」, 「非常用発電機」が多くなっている。悲しいことだが, 色々な事件がある。

私たちが何度か訪れている感じでは、そのようなことと縁の遠い地域かと感じたが、気にしているのだということが分かった。

P20, 21には、自由記述のコメントが載っている。新しい校舎に関する意見ということで、交流や安全、図書室、あるいはコミュニティなどといった言葉が目につく。これらに対してどういった形で建物が対応していくのかということを考えている。それから、P21には、学童の問題がある。これに関しては、正確には学校の問題ではないので、少し難しくなるかもしれない。それから、(5)⑤「未来を考えた教育」という意見は、個人的に面白いと思った。それから、(6)も当たり前だが、既存の校舎はまだまだ新しく、綺麗で立派なものとなっているので、それを損なわない形での計画も必要になってくる。

アンケート結果については、このように見させていただいた。とても関心が高く、きわめて真っ当なところを抑えているといった印象を感じている。

資料2-2に基づき、楠山設計より説明

楠山設計 引き続き、施設整備方針(案)に話を進めていくが、施設整備方針(案)というものは、設計事務所にとって、「この方向にいきたい」という要望を取りまとめるものになる。私たちはそれを受け、「だから、この教室はこうなる」、「だから、ここはこうする」というような、きっかけを与えてもらうことになる。そのテーマを僭越ながら、案として書かせていただいた。

先ほどの未来という言葉が引っかかったので、テーマを「将来の小美玉市を託す児童生徒を健やかに育む学校」とした。私たちとしては、将来は若い子たちに託すしかないのだから、その子たちがどのように風に育つかということを含めて造っていくことができるということが大事な、普遍的なテーマの1つではないかというように考えた。そして、5つの項目にブレイクダウンしている。

「1」は小学校、中学校を義務教育校にする、一貫した教育環境を提供するとしている。これは本当に大きな話であり、小美玉市で建設中のところがあると思うが、新しい取組になる。それを目指すということになる。その下、細字で「9年間の教育環境として、成長を感じられる各学年ユニットの整備と、異なる学年とのふれあいを演出する、ゆとりある空間を作ります。」というように書かせていただいた。同学年、同級生たちの場があった上で、縦のつながりということになると思う。それに対応する太字の箇所は、どちらかと言うと建築設計のキーワードのようなものになっている。学年別の教室を1つの括りにする、あるいは4-3-2にするのであれば、そのブロックの教室群を固まりにする。それから、3つの交流空間をつくる。また、校舎と体育館、校庭の構成を考える。充実した収納スペースとするといったことが「1」に関係してくる1つの考え方となっている。

次に、「2 児童生徒がお互いの個性を尊重しながら、生き生きと成長できる学校とします」としている。勉強自体は、基本的には個人の部分がある。まずは個人が自分のことを分かり、何をやりたいかが分かり、それで成長していきやすい環境をつくっていくことができると良いのではないかといいことがあり、「個性を伸ばすとともに仲間と共に生きるために、必要な社会性を学ぶ美しい校舎を提供します」とした。そのために、例えば、特別教室

の充実。特別教室を生かすためのメディアスペース，その科目に関心を持たせるための色々な展示や発表等のスペース。それから，給食対応の施設，配膳や食事。また，体育関連の施設。クラブ活動支援施設。校庭（遊具等）の整備。生活全般の中で，自分はどうなんだということを感じてほしいと思っている。

それから，「3 自身の目指す目標を表現し，みんなと共有できる環境を作ります」という考え方。「自分が何をやる」ということを黙って頑張るということもあると思うが，「自分はこうなりたい」ということを言える環境をつくる。それを聞くことによって，先生や友達も「これを頑張ったらどうだ」というように共有しながら頑張る。同じ方向を向いている仲間がいれば，一緒に頑張るということが，将来の目標を探し，ふさわしい準備ができるということになる。そのためのICT環境，インターネットを使ったヴァーチャルなものを整え，目標に一步ずつ進む姿を周囲が応援する舞台を用意するという考え方。そのためには，図書室が必要となる。また，LLC，カタカナで恐縮だが，いわゆる図書だけではなく，色々なメディアを使える環境，それをコンピュータで調べたり，多目的室で発表したりできる環境を考える。それから，自主的な学習ができるようにする。発表（コミュニケーション）施設となる生徒会室，放送室，大きな階段教室のようなもの，学校行事の対応設備といったものがより強く発表していくことができる環境をつくる。

そして，「4」は少し外に目を向ける。今日も夕方から小美玉にいたが，大きな空と夕焼けを見た。地元の人にはあまり面白くないかもしれないが，私たちにはなかなか見ることができる光景ではないので，それを毎日感じている人々，子供たちは幸せだと感じている。「小美玉の豊かな自然を感じとり，観察力・直観力を伸ばしながら逞しく成長できる，心地よい空間を提供します」ということをやりたいと思う。保健室や教育相談室，バリアフリー，通学時の安全施設，エネルギー対応，荒天候時・災害時の対応設備といったことも自然と関わってくるかと思う。

順番で最後にしてしまったが，「5 地域と共に成長し，生涯忘れない思い出を作る学校とします」ということをしたいと思う。「地域の教育力に支えられ，古くから変わらない宝を見つけられる，楽しい思い出を作る学校生活を提供します」としている。メモリアルコーナーの整備，地域交流スペース，地域開放施設，他校との交流のための施設，放課後対応の受入施設である学童など，5つの項目にさせていただいた。

次ページ以降は，それを細かく書いたものになっている。どちらかと言うと，網羅的な書き方になっている。これについては，ここで読むことはやめておきたい。「これはいらない，それよりこっちがほしい」といったことを委員に感じ取っていただき，それを集約し，何を優先するかということ私たちに伝えてほしいと思う。それをたたき台にして，これでどうかといったようなやり取りを行っていくと良いと思うので，ぜひ声を聞かせていただきたいと思う。

委員長 事務局に確認したい。次回の統合準備委員会において，委員から施設整備方針（案）に関する質問を行う時間は取れるだろうか。

事務局 今日でも大丈夫だが，次回も可能となっている。

委員長 今すぐに質問を行うことができるものもあるかもしれないが，一度持ち帰ってよく読んでもらい，質問をしていくようにすると良いと思う。そうすると，

	<p>視察の報告と対応させながら見るができると思う。今、ぜひ質問をしたいということがあれば別だが、一度持ち帰るといことで進めたい。方針の案が出されたが、持ち帰る前に確認しておきたいものがあるれば、お願いしたい。</p>
委員	<p>確認したい点がある。方針案の一番下に放課後対応の受入施設、学童保育がある。これについては、現在の小学校施設と一体として考えるものかと個人的には思っていた。今、新しい校舎を造るとい議論は行っているが、今までの小学校施設をどのようにしていくといった議論をある程度、この場で話し合うのではないかと思ったが、いかがか。</p>
事務局	<p>市では、教育委員会とは別な部署になるが、今年度を目処に学校跡地の基本方針の策定を進めている。学校建設に関しては、準備委員会の委員に携わっていただいているところだが、学校跡地の議論は別の形で考えている。</p>
委員	<p>学童だけではなく、例えば、今の小学校を地域の人達の活動拠点とし、ボランティアを募り、学童や宿題の面倒を見てくれるようなものとするなどといった考え方を1つの案として常々感じていた。そういったものを一緒に議論していただけるのかと思っていたが、そういったことではないということだろうか。</p>
委員長	<p>以前、ある委員から、施設内に学童を希望しているという発言があったことも記憶している。それと、跡地利用も含めて考え、工夫していかなくてはならないということかと思う。</p>
委員	<p>視察先では、1便目のバスが学校に朝7時くらい到着し、先生が大変だとい話があった。現在、小川北中学校区は、ほとんどの児童が小学校に歩いて通っている。バスが色々な地域を回るのはではなく、現在の小学校まで歩き、そこからバスで移動するということをする、朝の到着時間も遅くなり、視察先より先生達の負担が少なくなるといったこともあると思う。そういったことも一体となって考えていった方が良いと思う。そのためには、そこで地域の人たちが交流しながら、子供たちの面倒も見てもらえるということが理想かと前々から考えていたこともあった。そういったことを一緒に議論できると良いと思っていたが、そういったことではないということなので、少し残念に思う。</p>
委員長	<p>1つの提案とし、議論を重ねながら修正を加えていくということは可能ではないかと思う。今日の茨城新聞には、行方市の学校統合が全部終わり、その後の地域づくりに関する記事もあった。これから先になるが、そういったものも参考にしながら考えていく必要があるかもしれない。</p>
事務局	<p>先行している平成31年開校予定の小川南小学校については、準備委員会の中により詳細に議論できる総務・通学部会という専門部会を設置している。まずはハード面を進めてきたが、現在はスクールバスや校歌、校章などを議論している。ゆくゆくは、この準備委員会が母体となり、委員が提案されたようなことを並行して議論していけるというように考えている。ただ、先ほどあったとおり、跡地の問題については、基本方針という市全体の考え方、跡地に対する全体的な考え方をまとめている。その中で、各学校については、個別に議論を重ねていこうといった内容でまとまりつつある。一方では新しく学校が生まれることについての議論、一方ではなくなっていく学校についての議論となる。その議論を同じ会議で一度に進めると、どちらもなかなか進まないという現象が生まれてしまうのではないかということがあり、市で</p>

委員長	<p>は分けて考えようとしている。なので、具体的にまとめていく際には、会議がいくつもできてしまうデメリットはあるが、学校毎に改めて委員会等を組織し、議論していこうという市の方針をまとめているところになっている。会議がいくつもできてしまうというデメリットはあるが、跡地利用に関しても地域の人たちにとっては、大事なことであるということを事務局でも考えていただいている。今後もそのように進めていくということによろしいか。さらに質問等、確認したいことがあれば、お願いしたい。</p>
委員	<p>跡地については、どこの課が担当となるのだろうか。新しい学校については、これだけの人々が協力し合っているのだから、良いものができるかと確信している。私は上吉影小学校区にある地区の区長をしている。統合となった後、上吉影小学校をどのようにしていったら良いかについて、ある議員から3年前に話があった。上吉影小学校区の夏祭りや運動会など、グラウンドの利用といったことは、ある程度はあるのではないかとこの気持ちがある。小学校は大きな施設であり、上吉影小学校の場合は3階建てとなっている。また、現在は学童で使用しているようだが、幼稚園もある。その利用をどうしたら良いのか。周りの草刈や竹藪の処理などを行っているが、そういったことについてもどうなのだろうか。どこの課が担当になるのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>結論から言うと、どの課が担当になるかということはまだ決まっていない。ただ、跡地となった際には、教育財産ではなく市全体の財産になる。そのため、副市長をトップとし、市役所内を横断的に組織した政策調整会議を組織している。その政策調整会議に様々な部署の職員が集まり、議論を進め、現在は基本方針を定めているところとなっている。その議論において、委員から意見のあったとおり、市役所内でワンストップとなる窓口が必要だという強い意見が出ている。それについては、機能しなければ全く意味がないため、人事を管轄している総務部局と調整するなど、準備を整えている。ただ、どこが担っていくかということは、結論づいていない状況となっている。</p>
委員長	<p>その地域の人々の声を反映できる、聞ける窓口ができるということかと思う。これは間違いないことだろうか。</p>
事務局	<p>その方向を目指したいと思う。</p>
副委員長	<p>この委員会で話し合った意見が、そういったところにも伝わると良いと思う。例えば、放課後対応の受入施設と書いてあるが、それを新しくできる学校に造る必要があるのかということもあると思う。せっかく多くの人に集まっていたので、意見として聞いていただけると良いと思う。</p>
事務局	<p>発言のとおり、建設していく上で必要な議論が出てくる。それが自然と、跡地に関するものや、新しい学校に必要な施設なのかといった議論に繋がっていくと思う。この委員会での議論は、全く無駄にならないと思っている。事務局としては、出された意見に対して最大限考慮していきたいと考えている。そのように設計会社にも協力してもらいたいと思っている。よろしく願いたい。</p>

【その他】

事務局 次回，第5回統合準備委員会の案内をさせていただく。改めて通知で案内させていただくが，1月下旬の開催の予定としたい。協議内容としては，本日提示した施設設備方針（案）。それから，配置計画（案）について，協議いただきたいと思う。

20：10 閉会